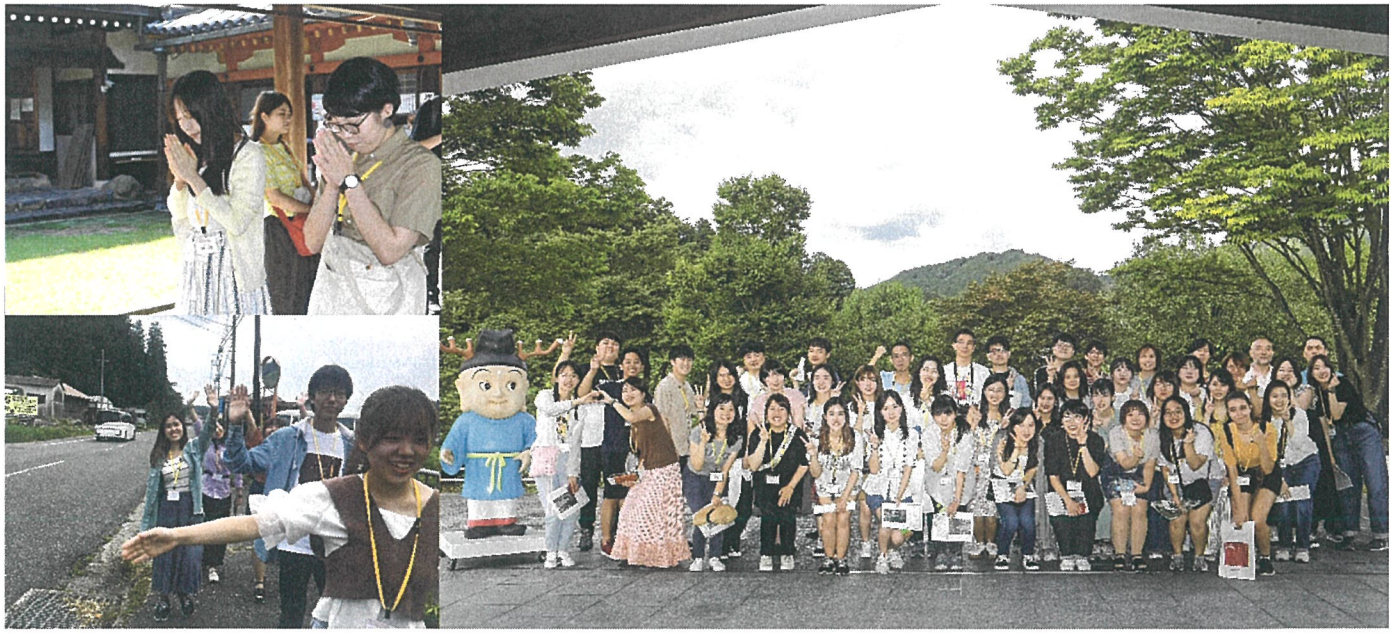
2022
東アジア・サマースクール
East Asia Summer School

東アジア・サマースクール２０２２
募集要項

申込期限：２０２２年 7月 6日（水）



奈良県・奈良県立大学

はじめに

近年、グローバル化の進展により、世界は大きな転換期を迎えていましたが、新型コロナウイルスはこれら全てを塗り替えるほどの影響を世界に及ぼすこととなりました。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、2020年以降、世界各国で出入国の制限措置がとられるなど、各国との往来による国際交流の機会は失われ、直近2年間における「東アジア・サマースクール」は残念ながら中止となりました。

このような時期であるからこそ、奈良県は、奈良県の持つ歴史的、文化的特色を活かしながら2011年より実施している「東アジア・サマースクール」を継続的に行うことにより、東アジアの次代を担う人材の育成に取り組むことが必要と考えています。

次代を担う人材は、東アジア諸国の歴史や文化、政治経済、社会事情等のリベラルアーツを学び、各国の共通性や相違点を理解することが必要です。若い世代が国を越えて対話し、相互交流を図ることが、東アジア地域における一体感を高め、互いの利益につながる施策を実行することに繋がると考えます。

2022
東アジア・サマースクール
East Asia Summer School

奈良県知事
東アジア・サマースクール名誉塾長
荒井 正吾（あらい しょうご）

２０１１年より開催している「東アジア・サマースクール」は、グローバル社会における東アジアの発展を目指し、次代を担う人材の育成や交流を目的として実施しており、今夏で１０回目を迎えます。

本スクールのカリキュラムは、歴史・文化、環境や情報など多岐にわたり、各分野に精通された講師陣による講義のほか、県内の文化遺産等に触れる視察研修、受講生によるレポート作成や成果発表など充実した内容となっています。

この「東アジア・サマースクール」に各国から多くの若者にご参加いただき、活発な知的交流から、相互の文化への尊敬を生み出し、将来の東アジアの発展に寄与できる人材になってもらいたいと考えています。

奈良県立大学学長
東アジア・サマースクール塾長
浅田 尚紀（あさだ なおき）

奈良県立大学を中心に奈良県内の地域や施設を会場として実施する東アジア・サマースクールは、東アジアの国々と地域の若者が奈良の地に集い、歴史・文化・観光・政治・環境・医療など幅広い分野の学びと多様な立場からの意見交換を通じて、東アジアについての理解を深める国際交流プログラムです。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により２年続けて中止しておりましたが、今年は日本国内への留学生の方々を迎え、開催することとなりました。

日本の古都「奈良」で出会い、学び、体験する２週間は、受講生の皆さんにとって国や地域の違いを超えた異文化交流の場となり、奈良から東アジア、そして世界に視野を広げる貴重な機会を提供します。

８月に皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

2022 東アジア・サマースクール East Asia Summer School

１．プログラム概要

（１）主 催

奈良県・奈良県立大学

（２）目 的

東アジアを中心とした様々な地域から参加される受講者のみなさんと共に、次の学習目標に向けたカリキュラムを学びます。

【学習目標】
東アジアの「共通性」や「関係性」に気づき、幅広いリベラルアーツを学ぶ

（２）プログラム期間

２０２２年８月１４日（日）　～　８月２６日（金）の１３日間

（３）受講対象

日本国内在住の留学生、大学生・大学院生、地方自治体職員（おおむね４０歳までの方）

（４）主なカリキュラム（スケジュールは右記参照）

講義（９０分 × １５回）
歴史、文化、観光、政治、社会保障、環境ほか様々な分野の著名な講師陣による講義を受講生全員で聴講し、自らの知識を広げ、グループ討議・成果発表へとつなげます。

グループ討議・発表（１２０分 × ５回）
１日の講義の終了後に、ファシリテーターの進行のもと、受講生同士（少人数）でディスカッション・発表を行います。意見を交わし学び合いながら、交流を深めていきます。

視察研修等（２日）
新たな気づきを得たり、奈良県の魅力再発見につなげるプログラムとして、専門機関の協力による視察研修等を行います。

成果発表（プレゼンテーション）
少人数のグループ毎にテーマを設定し、受講期間中に議論した内容を、成果として発表します。発表した成果物等は、記録誌やホームページ等に掲載します。

（５）参加費用

無料。宿泊費（朝食付き）、昼食費（※自習日等除く）、講義や各地域への視察研修、体験学習等にかかる費用は、主催者負担。　ただし、以下については**自己負担**となります。

- 居住地から会場まで（奈良市内の集合場所まで）の経費（往復）
- 期間中の夕食費、自習日の昼食費、個人的な飲食費･交通費、土産品の購入費等

（６）留意事項

①研修期間中の盗難、紛失、事故等については、主催者は責任を負いません。
②８月１５日および８月２５日は式典があるため、スーツまたはこれに類する服装をお願いします。（※特別な正装までの必要はありません）
その他、講義等についても、露出の多い服装は控える等、研修中であることを心がけた服装をお願いします。
③研修期間中は写真や動画撮影を行い、記録誌やホームページ掲載等、大学広報に使用します。
④新型コロナウイルスの感染拡大等、主催者が予期できないトラブル等の諸事情により、本事業の中止又はプログラム日程、内容に変更が生じる場合があります。
⑤新型コロナウイルスの感染対策として、検温、マスク着用、消毒等の対応を求める場合がありますので、予めご了承ください。

3．カリキュラム日程

1日目	8／14（日）	来県			集合	オリエンテーション①		宿泊
2日目	8／15（月）	オリエンテーション②		昼食	オリエンテーション③・④	開講式	歓迎会	宿泊
3日目	8／16（火）	講義	講義	昼食	講義	グループ討議	自習	宿泊
4日目	8／17（水）	講義	講義	昼食	講義	グループ討議	自習	宿泊
5日目	8／18（木）	視察研修①		昼食	視察研修②		自習	宿泊
6日目	8／19（金）	講義	講義	昼食	講義	グループ討議	自習	宿泊
7日目	8／20（土）	視察研修③		昼食	視察研修④		自習	宿泊
8日目	8／21（日）	講義	講義	昼食	講義	グループ討議	自習	宿泊
9日目	8／22（月）	講義	講義	昼食	講義	グループ討議	自習	宿泊
10日目	8／23（火）	自　習　日（自由時間）						宿泊
11日目	8／24（水）	成果発表制作		昼食	成果発表制作			宿泊
12日目	8／25（木）	発表準備・リハーサル		昼食	成果発表会	交流会 修了式		宿泊
13日目	8／26（金）	解散（帰着）						

※新型コロナ感染状況等により変更となる場合があります。

視察研修

３．応募の流れ

主催者が募集を依頼した大学･地方自治体から、下記提出書類を奈良県立大学東アジア・サマースクール事務局に郵送、もしくは電子メール（書式ファイルを添付）により提出してください。

（１）募集人数

おおむね４５名。受講希望者多数の場合は、主催者において調整します。

（２）応募資格

日本国内在住の留学生、大学生・大学院生、地方自治体職員（おおむね４０歳までの方）で、下記①～③の全ての要件を満たす者。

①主催者が募集を依頼した大学、または地方自治体からの推薦があること。
②日本語による大学レベルの講義やグループ討議、レポート作成等への対応が可能であること。
（口頭でのコミュニケーションが翻訳機等を使用せずに対応可能であること）
③カリキュラムの全日程に参加可能であること。

（３）応募方法

下記①②の両方を、日本語で記載し期限内に、書面または電子メールで提出してくだい。

【応募書類】

① 主催者が募集を依頼した大学、地方自治体からの推薦書（様式１）－Excel

② 東アジア・サマースクール受講生候補者個票（様式２）－Word

※提出書類は、選考の結果に関わらず返却しませんので、あらかじめご了承願います。

（４）申込締切日

２０２２年７月６日（水）※必着

※事務局で受領後、３日以内に電子メールで受領確認の通知（電子メール）をお送りします。

（５）選考結果（受講決定の通知）

２０２２年７月上旬を目途に、推薦いただいた大学または地方自治体宛てに、受講の可否を通知（書面または電子メール）します。

※研修の実施に支障が生じるため、受講が決定した後は参加をキャンセルすることのないようご協力願います。

（６）送付先、問い合わせ先

奈良県立大学東アジア・サマースクール事務局
〒 630-8258　奈良県奈良市船橋町１０番地
TEL：0742-22-4978　　E-Mail：summer-school@narapu.ac.jp
開室時間：月～金　9:30～12:00、13:00～16:30

（７）個人情報の利用目的・取扱い

収集した応募者の個人情報は、以下の目的で利用します。なお、収集した個人情報は主催者において適切に管理いたします。

- 受講者の選考および事業実施のため
- 「東アジア・サマースクール」に関連する情報の提供や連絡等のため
- 「東アジア・サマースクール」にかかる統計、データ分析のため

「東アジア・サマースクール2022」講師紹介

※五十音順

【交通と観光】
岩村 敬（奈良県立大学客員教授、(一財）環境優良車普及機構会長）

東京大学法学部卒。運輸省（当時）入省後、航空局長、運輸政策局長、国土交通省総合政策局長などを経て、2004年国土交通事務次官、2005年退官。その後、(財)港湾近代化促進協議会会長、慶應義塾大学環境情報学部教授、東京大学公共政策大学院特任教授、(株)損害保険ジャパン顧問、関西電力(株)顧問、関西国際空港(株)取締役会長を歴任。現在、(一財）環境優良車普及機構会長、（公財）交通エコロジー・モビリティ財団会長などを兼ねる。

【文化】
岡本 彰夫（奈良県立大学客員教授、放送大学客員教授、元春日大社権宮司）

1954年奈良県生まれ。國學院大學文学部神道科卒。春日大社に奉職。春日大社では殊に祭儀の旧儀復興に尽力し、恒例御神楽や春日若宮おん祭の御旅所祭などの故実並びに古式神饌等の古儀復興、社伝神楽の廃絶曲の復元、三旬奏楽の復興等、数々の神事を本儀に復すとともに、式年造替においては、明治維新期に失われた儀式を平成７年の第五十九次式年造替でほぼ完全な形に復興させた。2016年より現職。
<主な編著書等>『大和古物散策』（2000年）、『大和古物拾遺』（2010年）、『神様が持たせてくれた弁当箱』（2015年）、『大和のたからもの』（2016年）、『道歌入門』（2018年）、『日本人よ、かくあれ』（2020年）等

【思想】
小倉 紀蔵（京都大学大学院教授）

東京大学文学部ドイツ文学科卒、ソウル大学校哲学科博士課程単位取得。専門は東アジア哲学、韓国思想、韓国文化社会論など。NHKテレビ・ラジオ「ハングル講座」講師、外務省「日韓友情年2005」実行委員、「日韓交流おまつり」実行委員、「日韓文化交流会議」委員などを歴任。
<主な編著書等>『歴史認識を乗り越える』（2005年）、『創造する東アジア 文明･文化･ニヒリズム』（2011年）、『東アジアとは何か〈文明〉と〈文化〉から考える』（2012年）、『新しい論語』（2013年）、『朝鮮思想全史』（2017年）、『群島の文明と大陸の文明』（2020年）

【教育】
佐藤 禎一（奈良県立大学客員教授、桜美林大学特別招聘教授）

1941年生まれ。京都大学法学部卒業。博士（政策研究大学院大学）。文部省（当時）入省後、文化庁次長、学術国際局長、大臣官房長などを歴任し、1997年に文部事務次官、2000年退官。その後、同年に日本学術振興会理事長、2003年日本国政府ユネスコ代表部特命全権大使、2007年東京国立博物館長などを務め、2009年より政策研究大学院大学参議・客員教授を務めた。
<主な編著書等>『文化と国際法－世界遺産条約・無形遺産条約と文化多様性条約』（2008年）

【社会保障】
島崎 謙治（国際医療福祉大学・大学院教授）

1978年東京大学教養学部卒業後、厚生省（当時）入省。厚生労働省保険局保険課長、国立社会保障・人口問題研究所副所長、東京大学大学院法学政治学研究科客員教授、政策研究大学院大学教授を経て、2020年から現職。博士（商学）。長野県立病院機構理事、社会保障審議会医療部会委員、政策研究大学院大学名誉教授・客員教授。
<主な編著書等>『日本の医療―制度と政策（増補改訂版）』（2020年）、『医療政策を問いなおす ― 国民皆保険の将来』（2015年）、The Path to Universal Health coverage: Experiences and Lessons from Japan for Policy Actions (2013)

【国際法】

竹内　行夫（元外務事務次官、元最高裁判所裁判官、奈良県立大学客員教授）

奈良女子大付属高校卒。京都大学法学部卒。外務省入省後、条約局長、北米局長、総合外交政策局長、駐インドネシア大使などを歴任し、2002年外務事務次官、2005年退任、外務省顧問就任。政策研究大学院大学連携教授、最高裁判所判事を務め2013年最高裁判所判事を定年退官。2014年旭日大綬章を受章。

＜主な編著書＞「外交証言録　高度成長期からポスト冷戦期の外交・安全保障　国際秩序の担い手への道」（2022年）

【環境】

田中 克（京都大学名誉教授、舞根森里海研究所長）

京都大学大学院農学研究科博士課程修了。西海区水産研究所研究員、京都大学大学院農学研究科教授、京都大学フィールド科学教育研究センター長、マレーシアサバ大学ボルネオ海洋研究所客員教授などを経て、2009年よりNPO 法人森は海の恋人理事、2014年4月より舞根森里海研究所長。2003年に森から海までの多様なつながりを明らかにして自然や社会の再生に関する統合学「森里海連環学」を提唱し、震災の海三陸や瀕死の海に至った有明海の再生を森里海をつむぎ直すことを基本視点に進める。

＜主な編著書等＞「森里海連環学への道」（2008年）、「森里海連環学」（2011年）、「森里海連環による有明海再生への道」（2014年）、「森里海を結ぶ（１）いのちのふるさと海と生きる」（2017年）、「森里海を結ぶ（２）女性が拓くいのちのふるさと海と生きる」（2017年）、「生命文明の時代」（2018年）、「森里海を結ぶ（３）いのち輝く有明海を－分断・対立を超えて協働の未来選択へ」（2019年）、「森里海を結ぶ（４）いのちの循環「森里海」の現場から－未来世代へのメッセージ72」（2022年）

【歴史】

田辺（田邉）　征夫（ (公財)元興寺文化財研究所所長）

慶應義塾大学文学部卒業、京都大学大学院修士課程中退、文化庁美術工芸課主任文化財調査官、東京国立博物館学芸部考古課長、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部長、独立行政法人国立文化財機構理事奈良文化財研究所長、奈良県特別顧問、奈良県立大学特任教授、（公財）大阪府文化財センター理事長などを歴任。2015年秋の叙勲で瑞宝小綬章を受章。

<主な編著書等>

『歴史考古学大辞典』（2007年）、『古代の都2平城京の時代』（2010年）等

【奈良】

筒井 寛昭（東大寺長老、東大寺上院院主）

1946年奈良県生まれ。1955年に東大寺に入寺し、甲南大学文学部社会学科卒業。2007年に東大寺執事長・華厳宗宗務長、2013年に華厳宗管長・第221世東大寺別当に就任後、2019年5月より現職。独自の視点を交え、華厳経の教えや大仏にまつわる逸話を説く講話会も行っている。

<主な編著書>

『もっと知りたい東大寺の歴史』（2010年）、『あなたを幸せに導く仏様からのアドバイス(今を生きるシリーズ)』（2014年）等

【奈良】

中島 敬介（奈良県立大学ユーラシア研究センター副センター長／特任准教授）

大阪外国語大学外国語学部卒。奈良県庁入庁後、県政基本方針「『遊』のある奈良県づくり」、「奈良県新総合計画」、奈良県観光戦略「大和路交流機会創出事業」、平城遷都1300年記念事業等を担当。新近畿創生すばる推進委員会調査役（1998-1999）、京都嵯峨芸術大学非常勤講師（2003-2008兼職）、経産省次官・若手プロジェクト有識者委員（2016-2017）。2017年から現職。

＜主な編著書等＞「観光税政策に関する研究」（2004年）、「地域経営の視点から見た平城遷都1300年記念事業」（2008年）、「もう一つの観光資源論」（2014年）、「井上円了の－奇妙な－ナショナリズム」（2017年）、『論集　井上円了』共著（2019年）、『奈良県立大学ユーラシア研究センター学術叢書１～４』（2022年）等

【情報】
美濃 導彦（理化学研究所情報統合本部本部長、前理化学研究所理事、前京都大学副理事）
京都大学工学部情報工学科卒業。同大大学院博士課程修了。京都大学工学部教授、マサチューセッツ州立大学客員研究員、京都大学学術情報メディアセンター長、同大情報環境機構長などを経て現在に至る。専門分野は情報学、知能情報学。
<主な編著書等>『情報メディア工学』（1999年）、『画像処理論：Web情報理解のための基礎知識』（2014年）等

【観光】
藻谷 浩介（(株)日本総合研究所主席研究員、(株)日本政策投資銀行 地域企画部特任顧問）
山口県生まれの５６歳。平成合併前の３，２００市町村のすべて、海外１１４カ国を自費で訪問し、地域特性を多面的に把握。地域振興、人口成熟問題、観光振興などに関し、精力的に研究・著作・講演を行う。２０１２年より現職。
<主要な編著書>
『デフレの正体』（2010年）、『里山資本主義』（2013年）、『観光立国の正体』（2016年）、『完本・しなやかな日本列島のつくりかた』（2018年）、『世界まちかど地政学NEXT』（2019年）、『東京脱出論』（2020年）、『進化する里山資本主義』（2020年）等

【美術】
籔内 佐斗司（東京藝術大学名誉教授、奈良県立美術館長、奈良県立大学客員教授）
1953年大阪府生。彫刻家。東京藝術大学美術学部彫刻科卒。同大学院美術研究科修了。同大学院保存修復技術研究室で仏像の古典技法と修復技術を研究。2004年から2021年まで、東京藝術大学大学院文化財保存学教授。2019から2021年、同学副学長。在任中、国宝・重文を含む約100体の仏像修復と調査研究に携わる。彫刻家としては、仏教的世界観や東洋的自然観を「童子」のキャラクターで表現。木彫作品のほか、ブロンズの小品や屋外作品も多数。第21回平櫛田中賞受賞。平城遷都1300年祭の公式マスコットキャラクター“せんとくん”を制作。2021年から現職。
<主な編著書等>『仏像礼讃』(2015年)、『古典彫刻技法大全』(2021年)、『ほとけの履歴書』（2020年）等

【観光】
山田 桂一郎（奈良県立大学客員教授、JTIC.SWISS代表）

1965年三重県生まれ。「世界トップレベルの観光ノウハウを各地に広めるカリスマ」として内閣府・国土交通省（観光庁）・農林水産省が認定（2005年）する観光カリスマ。スイス・ツェルマットやヴァレー州政府等の観光局における日本･アジア向けマーケティング担当のほか、JTIC.SWISS（日本語ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ：1992年設立）代表、NPO法人日本エコツーリズム協会理事（2004年）を務める。欧州とアジアを中心に環境保全・利活用を推進してきた環境カウンセラー（環境省1996年事業者部門、2003年市民部門登録）でもあり、地域力創造アドバイザー（2010年総務省）、地域活性化伝道師（2015年内閣府官房）、クールジャパン地域プロデューサー（2016年内閣府官房）など、幅広い方面で活躍する。

【国際政治】
李鍾元 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授、早稲田大学韓国学研究所長)

韓国生まれ。東京大学大学院法学政治学研究科修了（法学博士）。専門は国際政治学、東アジア国際関係論。東北大学法学部助教授、立教大学法学部教授、米国プリンストン大学客員研究員、朝日新聞アジアネットワーク客員研究員、北京大学招聘教授などを歴任し現在に至る。
<主な編著書等>『東アジア冷戦と韓米日関係』（1996年、大平正芳記念賞、米国歴史家協議会外国語著作賞など受賞）、『国際政治から考える東アジア共同体』（2012年）『東アジア　和解への道』（2016年）、『戦後日韓関係史』（2017年）

2022
東アジア・サマースクール
East Asia Summer School

～「東アジア・サマースクール」参加者からのメッセージ～

東アジアの文化について、様々な国の方と意見を交わすことが出来る良い機会だと思ったので参加させていただきました。東アジアサマースクールでは、日本に来ている留学生や日本語学科に所属している学生が参加しており、講義や日常会話は全て日本語だったので、自分の外国語力に自信がなくても問題なく参加できました。各国の文化を共有し合うことができ、また日本の文化についても考えることが出来ます。参加を考えている方は、留学やワーキングホリデーに行く前の国際交流第一歩として、このサマースクールに参加してみるのもいいと思います。【鳥原　蓮花（日本：奈良県立大学）】

私がサマースクールに参加した理由は、留学志望があり留学への第一ステップになると思い参加しました。はじめは不安でドキドキしましたが、とてもいい経験になったと思います。各国の方と授業を受講し、様々な分野について学ぶことができました。また、視察体験では、奈良県についての歴史を知ることができ、改めて奈良県の良さ、日本の良さを学べたと思います。私はサマースクール後に、留学へ行くことが決まりました。サマースクールで体験したことや、日本とは異なる習慣･文化･歴史、世界から見る日本をしっかり勉強し、成長したいと思います。【檜垣　舞衣（日本：奈良大学）】

私はサマースクールに大学入学前から参加したいと考えていました。私はこの13日間に日韓中の歴史や政治、伝統についての講義を受け、討議を行いました。討議を進める中で私は各国の報道には真偽に違いがあることを知りました。また、成果発表では日韓中の仏像について調べ、限られた時間内で睡眠時間を削る日もありました。しかし、完成した時には今までに感じたことのない達成感がありました。サマースクールの後も定期的に会うことができており、かけがえのない友達ができました。13日間大変でしたが、すごく充実した日々を過ごすことができました。今後、私たちが出会い、仲良くなれたように東アジアの国際交流がさらに深まることを願います。

【井上　美穂（日本：畿央大学）】

このサマースクールで私は、非常に良質な生きた知識を得ることができました。私の考える生きた知識とは、一問一答的に現れるような単なる知識ではなく、あらゆる問いに対して転用可能であり、また、問いを新しく生み出すことも可能にするような知識を指します。このサマースクールでは、多岐にわたる分野の第一線で活躍されている方々から学ぶことができ、その学びに関しての討論の場も設けられています。そして、その討論のメンバーは東アジア各国から集まった人達であり、議論の深まりも、想像をはるかに超えてきます。これらの取り組みが、私の中に生きた知識を与えてくれました。しかし、このことはサマースクールの、ほんの一側面にすぎません。次代の皆さんには、ぜひとも積極的な行動をしてもらいたいです。得ることの多さに、驚愕するはずです。【有川　周志 （日本：宮城大学）】

２週間にわたったサマースクールは私にとって今までで最も貴重な経験だと思います。東アジア各国から奈良に集まり、文化や政治など様々な分野の講義を受け、相違点などについて勉強し考える機会を得ることができました。毎日講義終了後、チームメートと議論し発表の準備をしたのも楽しかったです。講義以外にも東大寺への視察やホームビジット体験など本当に素晴らしかったです。日本人の住むところに訪問したのは初めてでした。日本語が下手な私の話しを皆さんとても親切に聞いてくれました。本当に感謝しています。たくさんの友達ができ今後も連絡が絶えないように交流したいと思います。とても有意義な時間を過ごすことができました。

【康麗麗（中国：上海師範大学）】

参加者に優しい企画、私にとって東アジアサマースクールはみんなと親しくなりやすく、また貴重な講義を聞ける時間が沢山ありました。自分なりの時間の過ごし方を作ってください！心を開けて講義を聞いてください！皆さんが思った以上の事がここにはあります！是非、参加してみてください！

【キムミンファン（韓国：東洋大学校）】

あっという間に１３日間が終わりました。期待以上に得たものは多くありました。様々な分野の貴重な講義を受講し、また、東大寺や万葉文化館等の視察体験を通じて、奈良の歴史をよく知ることができ、本当によかったです。そして、東アジア各国の友達と交流し、遊びに行ったりし沢山笑うことができました。しかし、涙もありました。それは、別れる時の涙でした。お世話になったり、支えていただいた皆さんのおかげで、有意義な夏休みを過ごしました。心の底から感謝申し上げます。皆さんとの出会いは私の「一期一会」です。サマースクールに参加したことを誇りに、これからの取組も頑張っていきたいと思います。

【チャン･ティ･トム（ベトナム：静岡県立大学留学生）】